

2025 年 度

地 理

注 意

1. 監督者の合図があるまでは問題冊子と解答用紙を開かないでください。
2. 解答はすべて解答用紙の決められた箇所に記入してください。
3. 試験開始後、解答用紙に氏名・受験番号を記入してください。
4. 試験問題はこの冊子の1～19ページに記載されています。
問題冊子の白紙部分は、メモとして使用して構いません。
5. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ってください。

I 交通・通信産業の発展について述べた次の文を読み、以下の問いに答えなさい。

なお、文中の同一記号は同一内容を示している。

交通に関する科学や技術は、自然条件にしたがった工夫から、自然条件にとらわれずに効率を求めるものへと変わってきた。古代の道は、川に沿ってのぼり、上流で川を越えるルートをとることが多かったが、架橋技術の進展などとともに海岸沿いのルートが増えた。^①トンネルや橋によるルートの短縮は今日でもみることができる。

海上交通においても、同様である。風や海流にしたがった航路の開発は、^②測量や地図作成の技術とともに世界に拡がり、その後、帆船から蒸気船への転換に進んだ。植民地などを求める帝国主義の競争も、これに深くかかわる。スエズ運河は、 人レセップスの計画によって1869年に開通した。当初は と が主に出資する会社によって運営されていたがイギリスが経営権を取得し、その後、第二次中東戦争などの末、1956年からは が国有化している。レセップスはパナマ運河の計画にもかかわったが、工事はスエズ運河より難しく、時間を要した。1914年に が開通させ、その後1999年にパナマに完全譲渡された。

^③航空機の発達は直線的な移動をさらに推進した。初期には山脈の回避、風の影響、給油地点の確保などが航路を決める重要な要素だったが、今日では技術的にはほぼ最短距離の航路をとることが可能になった。

自動車も移動の効率化を促進した。 におけるT型フォードの開発から始まった大衆車の普及と道路交通網の発達とともに進んだモータリゼーションは、人びとの生活に直結したところでライフスタイルや地域産業にも影響を与えた。

とはいえ、交通における自然条件の重要性は今でも大きい。海上交通では、^④運河とともに海峡などの存在が船の大きさにも影響を与えるし、陸上でも、山脈、砂漠などの存在が鉄道や道路の敷設にとって障害となる。また、資源消費や温室効果ガスなどへの配慮から、カーボンフットプリントと航空輸送の関係、^⑤モータルシフトのあり方などが考えられている。

〔問い〕

(1) 文中の空欄 a～c にあてはまる国名をそれぞれ答えなさい。

(2) 文中の下線部①～⑤に関する以下の問いに答えなさい。

1. 下線部①について、1998年に東京(新宿)と飛騨地方の高山市を結ぶ直通高速バスの運行が開始された。これは安房峠道路のトンネルが開通したことによるものであるが、このトンネルが結ぶ両端の県名を答えなさい。

2. 下線部②について、次の文の空欄 ア～ウ にあてはまる語句の組合せとして正しいものを下の選択肢 あ～か から一つ選び、記号で答えなさい。

大航海時代に生まれたメルカトル図法は、 図法の一つであり、地図が長方形となる。海図として重要なことは コースが地図上において直線で示されることである。ただし、そのために および同一経線の上を除いては距離が正しくない。高緯度ほど距離や面積が拡大されるので、分布図などには適さない。

【選択肢】

	あ	い	う	え	お	か
ア	円錐	円錐	円錐	円筒	円筒	円筒
イ	大圏	大圏	等角	等角	等角	大圏
ウ	本初子午線	赤道	本初子午線	赤道	本初子午線	赤道

3. 下線部③に関連して、航空輸送の拡がりは正距方位図法の重要性を高めた。
東京を中心とした正距方位図法による次の図1を参照して、以下の問いに答えなさい。

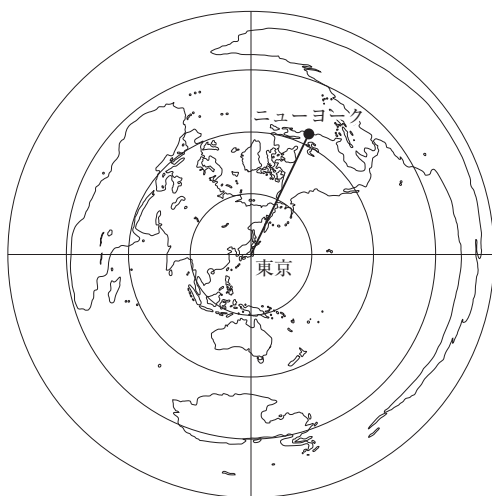


図1 東京を中心とした正距方位図

- 1) 次の文の空欄 ア と イ にあてはまる語句の組合せとして正しいものを下の選択肢 あ～か から一つ選び、記号で答えなさい。

地図から、東京からニューヨークまでの地表上の最短距離が約 kmであることが読み取れる。地図上の直径が の長さに相当し、東京・ニューヨーク間が地図上の半径の2分の1より少し長いからである。

【選択肢】

	あ	い	う	え	お	か
ア	6,000	11,000	16,000	6,000	11,000	16,000
イ	赤道	赤道	赤道	経線	経線	経線

- 2) 次の あ～お の国のうち、東京から西に向かうルート上から外れるものを
2つ選び、記号で答えなさい。

あ バングラデシュ い シンガポール う 韓国
え タンザニア お トルコ

- 3) 次の文中の空欄 ア と イ にあてはまる地域名・都市名を答えなさい。な
お、文中の同一記号は同一内容を示している。

明治期の欧亜国際連絡列車は、当時、東京とベルリンをつなぐ最短・最速
のルートだった。ヨーロッパロシアとユーラシア大陸東岸のウラジオストク
を結ぶ 鉄道の開通、東京から琵琶湖沿岸の長浜、さらに福井県の
 をつなぐ鉄道の開通、そして、ウラジオストクと との
定期航路によって、東京とヨーロッパの間がつながった。後には、下関から
プサンに船で渡り、そこからハルピンなどを経て 鉄道に向かう
ルートなどもできた。

4. 下線部④について、運河や海峡ごとに、通航できる船の大きさは制限されて
いる。その大きさは、全長、全幅、喫水、最大高によって測られる。パナマ運
河を通過するために船の長さも制限されることを運河の構造に言及し、20字程
度で説明しなさい。
5. 下線部⑤について、日本の運送業でもモーダルシフトが起こり、特に「2024
年問題」が注目された。日本の運送業のモーダルシフトに期待される効果につ
いて、環境問題にかかわる点と、労働問題にかかわる点の両方から40字程度で
説明しなさい。

(3) 世界の交通にかかわる統計について、以下の問いに答えなさい。

1. 次の表1は、鉄鉱石、石炭、原油、コンテナおよび穀物について、世界の荷動き量の推移を示したものである。A～Cの組合せとして正しいものを下の選択肢 あ～かの中から一つ選び、記号で答えなさい。

表1 世界の海上荷動き量の推移(単位：百万トン)

	2000年	2010年	2020年
A	1,745	1,917	1,871
鉄鉱石	447	990	1,502
石炭	509	926	1,178
B	605	1,231	1,763
C	230	319	518

『世界国勢図会 2023/24』より作成。

【選択肢】

	あ	い	う	え	お	か
A	原油	原油	穀物	穀物	コンテナ	コンテナ
B	コンテナ	穀物	原油	コンテナ	穀物	原油
C	穀物	コンテナ	コンテナ	原油	原油	穀物

2. 次の表2は、いくつかの国の二輪自動車と乗用車の保有台数を示したものであり、表中の A～C は、ドイツ、インドネシア、中国のいずれかである。A と C に該当する組合せとして正しいものを、下の選択肢 あ～か の中から一つ選び、記号で答えなさい。

表2 二輪自動車(2020年)と乗用車の保有台数(2020年)

	二輪自動車保有台数(千台)	乗用車保有台数(千台)
A	115,189	15,798
B	71,471	273,409
日本	10,348	62,194
イタリア	8,721	39,718
C	6,350	48,249

『世界国勢図会 2023/24』より作成。

【選択肢】

	あ	い	う	え	お	か
A	インドネシア	インドネシア	中国	中国	ドイツ	ドイツ
C	ドイツ	中国	インドネシア	ドイツ	インドネシア	中国

- (4) 近年では携帯電話・スマートフォンが途上国の地方部にまで普及しており，固定電話やパソコン通信が主流だった時代に比べて，情報格差が縮まったと言われる。交通などのインフラ整備が進まない地域でも携帯電話・スマートフォンが普及しやすくなった理由を，通信回線の接続と電源に言及して60字程度で説明なさい。

Ⅱ 次の文はメイカさんのオーストラリアでの経験に関して述べたものであり、図1はオセアニアの地図である。これを読み以下の問いに答えなさい。なお、文中と図中の同一記号は同一内容を示している。

大学生のメイカさんは、高校時代からの目標であった日本語教師になるため、大学3年生の時に、オーストラリアのメルボルンでインターンシップを行った。メルボルンの高校では、現地の人々の文化的多様性を反映して、様々な言語を学ぶ授業がある。メイカさんは現地の日本語学校で日本語教師のアシスタントとして働いた。

滞在中、メイカさんが驚いたのは、メルボルンが「Wurundjeri Woi Wurrungの土地」にあるという看板をよく目にしたことである。Wurundjeri Woi Wurrungをはじめとするオーストラリア大陸全域に居住している先住民は総称して a と呼ばれている。メイカさんは休日を利用して、現在、 a 人口が比較的多い地域を巡って旅行をした。オセアニアは、オーストラリア大陸と多くの島嶼から成っている。^①メイカさんはA、B、C、Dの四つの地域を訪れ、この大陸が b の植民地になる前にこの地に住んでいた a の多様な生活に思いをはせた。

メイカさんは半年のインターンシップを無事に終えて帰国し、オーストラリアについてさらに学ぶため、大学で「オセアニア地域研究」の授業を履修することにした。メイカさんは学期末に、滞在中に訪れた四つの地域を比較するレポートを作成した。18世紀以降、多くの人々がこれらの地域に移住し、そこに様々な産業を発展させた。^③現在、この国では互いに文化を尊重し合う社会の構築をめざす多文化主義政策の取り組みが行われている。^④

学期末に提出したレポートに対して、担当教員から「オーストラリアと類似した社会^⑤についての比較研究を進めてみるとよいでしょう」というコメントをもらった。メイカさんは、来学期に「北米地域研究」を履修することになっている。そして卒業後^⑥には、もういちどオーストラリアを訪ねて、オーストラリアと日本の架け橋になるような仕事に就きたいと考えている。

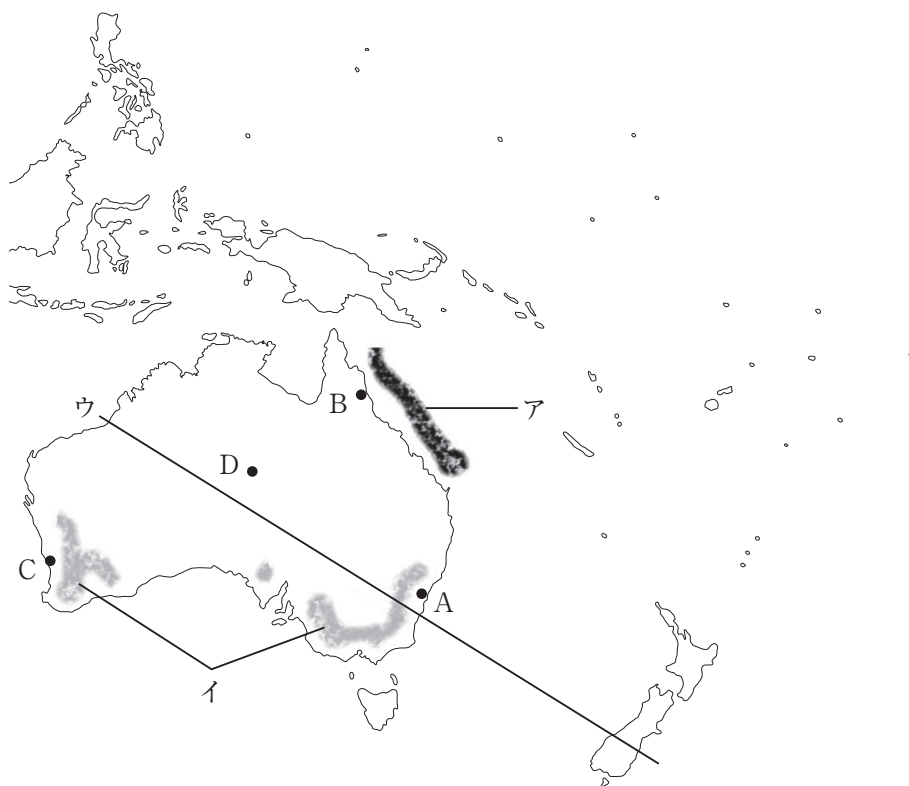


図1 オセアニアの地図

〔問い〕

- (1) 文中の空欄 a と b に当てはまる語句・国名をそれぞれ答えなさい。

(2) 文中の下線部①～⑥に関する以下の問いに答えなさい。

1. 下線部①に関連して以下の問いに答えなさい。

1) 図1中の ア はサンゴの生育地を示している。世界遺産にも指定されているこのサンゴ礁地帯の名称を答えなさい。

2) 次の図2はサンゴ礁の一例である。このサンゴ礁の形成過程と形状を20字程度で説明しなさい。



図2 サンゴ礁

Map data ©2019 Googleより作成。

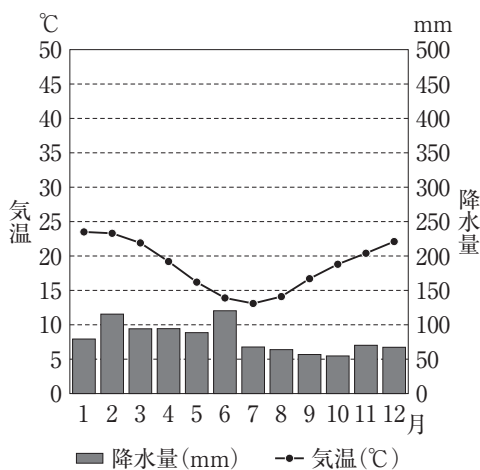
3) 太平洋の島々について述べた文として適切でないものを、次の選択肢 あ～え の中から一つ選び、記号で答えなさい。

【選択肢】

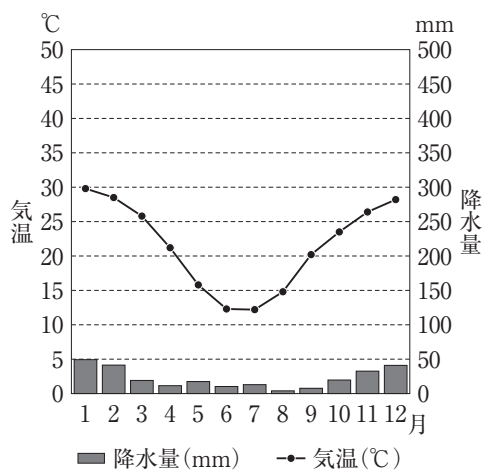
- あ 人口の少ない南太平洋地域は、第二次世界大戦後も、欧米の軍事基地や核実験場となってきた。1985年には南太平洋非核地帯設置条約(ラロトンガ条約)が締結され、1996年には国連常任理事国のすべてが条約に加盟し、南太平洋の核実験は事実上終結した。
- い 人口約1万人の小国ツバルは、国土の最高地点が5メートルと極めて低平なため、地球温暖化に伴う海面の上昇に危機感を抱いている。現在は、水没しない人工島の整備計画が進められている。
- う フィジーの民族構成は、フィジー系に次いでスペイン系の割合が多い。19世紀後半にさとうきび農園の労働者として移住させられた経緯による。
- え トンガでは、農業が主産業である。南半球では日本とは季節が逆であることを利用して、日本国内産のカボチャが品薄になる冬の端境期に合わせてカボチャの栽培が行われている。

2. 下線部②について以下の問いに答えなさい。

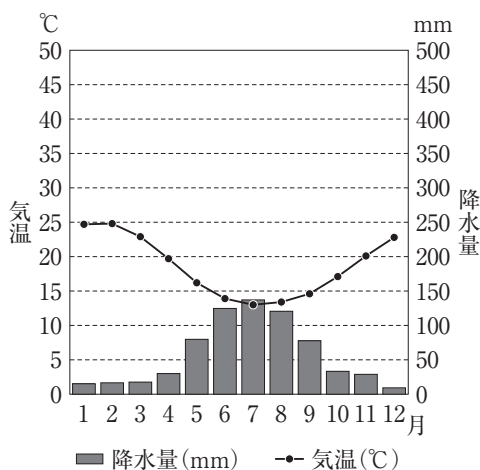
1) 次の図3中の雨温図 あ～え は、図1中の地点 A～D のいずれかに該当する。地点Aの雨温図として適切なものを、下の選択肢 あ～え の中から一つ選び、記号で答えなさい。



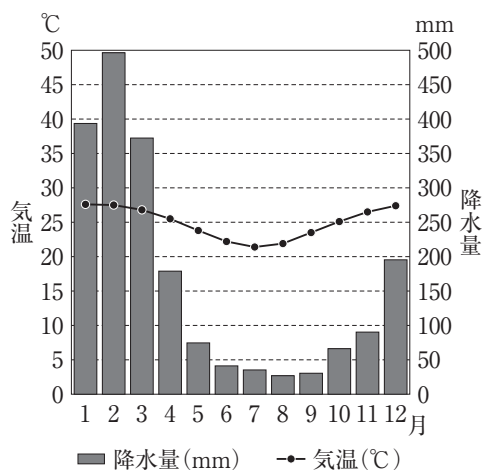
あ



い



う



え

図3 雨温図

『気象庁 世界の地点別平年値』より作成。

2) 図1中のイについて、大規模な灌漑と機械化によって、農作物が栽培されている。次の図4はその農作物の2021年の主要輸出国を示している。この作物名を答えなさい。

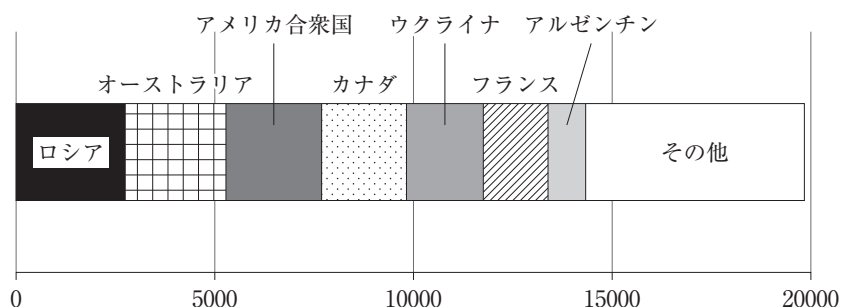


図4 ある農作物の主要輸出国(2021年)(単位：万トン)

『世界国勢図会(2023/24)』より作成。

3) 図1中の地点Dは先住民の聖地ウルルへの観光拠点として知られている。ウルルについて述べた文として適切でないものを、次の選択肢 あ～えの中から一つ選び、記号で答えなさい。

【選択肢】

- あ 半乾燥平原地帯に、固い砂岩層が侵食による消滅から免れた残丘として残っている。
- い 先住民の土地に対する権利を保障する地域となっている。
- う 先住民が声をあげ、観光客による聖地への登山が禁止された。
- え 現在、ウルルとその周辺地域を世界遺産へ登録するための運動が行われている。

4) 次の図5は図1を横切る直線 ウ で切ったおおよその断面図である。この断面図を参照しながら、それぞれの自然環境と産業に関する説明として適切でないものを、次の選択肢 あ～え の中から一つ選び、記号で答えなさい。

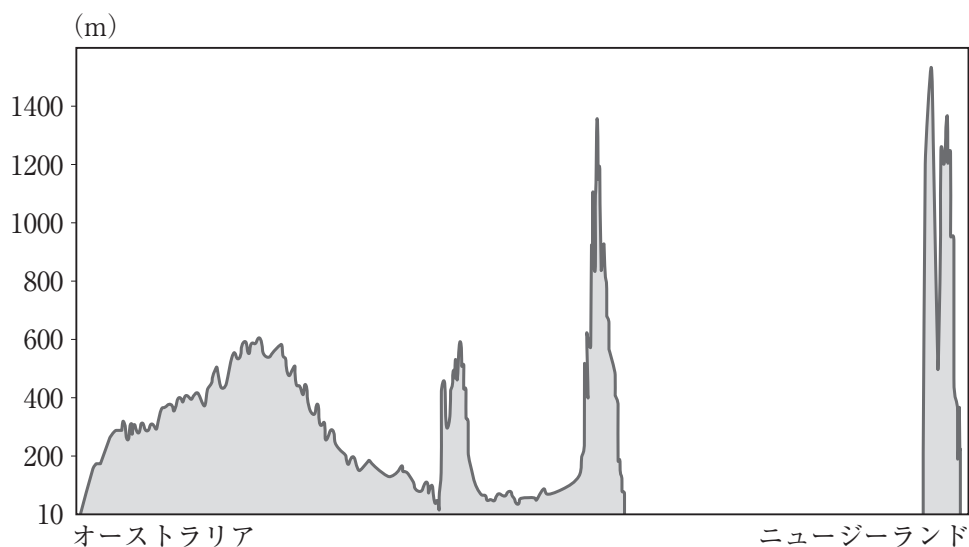


図5 断面図

【選択肢】

- あ オーストラリア大陸では、西側が乾燥し、東側が湿潤である。
- い ニュージーランド南島では、島の西側が東側より降水量が少ない。
- う オーストラリア大陸の中央の盆地では、被圧地下水を利用して羊や牛の放牧が行われている。
- え ニュージーランド南島では、島の西側で林業が発達し、東側では粗放的な牧畜が広くおこなわれている。

3. 下線部③について、次の文を読み、空欄 X～Z にあてはまる語句を、下の語群の中から選んで答えなさい。なお、同一語句を複数回用いてもよい。

19世紀半ばのゴールドラッシュ以降、オーストラリアでは X 系移民が増加したため、白豪主義政策がとられた。しかし第二次世界大戦以降は Y 系移民を受け入れ始め、1970年代以降は、労働力不足を解消するために Z 系移民を多く受け入れた。

【語群】

アジア 東・南欧 南米 アフリカ

4. 下線部④について、この政策の具体的事例について述べたものとして適切でないものを、次の選択肢 あ～え の中から一つ選び、記号で答えなさい。

【選択肢】

- あ 英語以外の多様な言語によるテレビ放送
- い 移民に対する無料の英語教育
- う 非熟練労働者の優遇
- え 24時間365日利用できるオンライン通訳サービス

5. 下線部⑤について、オセアニア地域のニュージーランドと、北米のカナダは、太平洋を挟んで1万キロメートル以上も離れているが、その歴史、社会、生活文化などには共通点も多い。共通点について述べた文として適切でないものを、次の選択肢 あ～え の中から一つ選び、記号で答えなさい。

【選択肢】

- あ 両国の土地は、かつてヨーロッパ諸国による植民地政策下に置かれていた。
- い 国家の建国・維持に伴い、先住民が迫害されてきた。
- う 19世紀半ばまで、主にヨーロッパからの移民受け入れ国であった。
- え 東西冷戦が激化した時代に、NATOに加盟した。

6. 下線部⑥について、1980年代に制定され、日本とオーストラリア間の若者の移動を推進した制度について、その制度名に言及しながら、次の語群の用語をすべて用いて50字程度で説明しなさい。

【語群】

2 国間協定 文化交流

Ⅲ 食料問題について述べた次の文を読み、以下の問いに答えなさい。

世界全体でみると、食料生産の増加は人口増加を上回っている。しかし、食料の需要と供給の地域的不均衡などから、食料問題が生じている。世界には食料危機が^①深刻化している地域が多くあり、特にサハラ以南のアフリカ諸国に集中している。

この地域では、干ばつなどの自然災害や、紛争などの政治的混乱が、食料不足を引き起こすことが少なくない。また、この地域では一国の経済が特定の一次産品の生産や輸出に依存するモノカルチャー経済^②により、自給用作物の増産が遅れてきた。

一方、世界では食料問題を解決しようとする取り組みも行われてきた。例えば、インドでは1960年代末から a と呼ばれる技術革新によって穀物の高収量品種が普及し、食料自給率が飛躍的に向上した。また、コートジボワールでは、貧困対策と食料確保の切り札として b という高収量品種のイネ品種が開発され、他のアフリカ諸国に普及してきた。

食料問題の背景には、さまざまな要因がある。例えば、近年、トウモロコシなど^③の穀物は、食用以外の用途で使われるための需要が拡大し、世界の穀物供給を圧迫している。それによって、穀物価格は上昇・不安定化し、穀物を輸入に頼る多くの発展途上国は大きな痛手を受けている。また、先進国では食生活が多様化し、食料を過剰に摂取する飽食と呼ばれる状況が長く続いている。しかし、食料問題を社会^④問題として捉え、解決しようとするさまざまな試みも広がりつつある。

〔問い〕

(1) 文中の空欄 a と b にあてはまる語句をそれぞれ答えなさい。

(2) 文中の下線部①～④に関する以下の問いに答えなさい。

1. 下線部①について、健康と体重を維持し、軽度の活動を行うために必要な栄養を十分に摂取できない人々がいる。このような人々のことを何というか、解答欄にあてはまるように漢字4文字で答えなさい。

2. 下線部②について、次の表1はベナン、マラウイ、コートジボワールにおける輸出品目の割合を示したものである。AとCに該当する組み合わせとして正しいものを、次の選択肢 あ～か の中から一つ選び、記号で答えなさい。

表1 特定の品目が輸出額に占める割合が高い国とその品目

国名	1 位	2 位	3 位
A	綿花(64.9%)	採油用種子(5.7%)	鉄鋼(4.8%)
B	カカオ豆(29.1%)	金(非貨幣用)(11.8%)	天然ゴム(8.3%)
C	葉タバコ(44.3%)	大豆(10.7%)	野菜と果実(9.4%)

『データブック オブ・ザ・ワールド 2024年版』より作成。

順位はその国の輸出総額(ドル)に占める割合。

注)ベナンは2022年、マラウイは2021年、コートジボワールは2020年および2021年のデータ。

【選択肢】

	あ	い	う	え	お	か
A	ベナン	ベナン	マラウイ	マラウイ	コート ジボワール	コート ジボワール
C	マラウイ	コート ジボワール	ベナン	コート ジボワール	マラウイ	ベナン

3. 下線部③について、食用以外でどのような穀物需要が拡大しているか。具体的な例を二つ挙げて30字程度で答えなさい。

4. 下線部④について述べた文として適切でないものを，次の選択肢 ア～エ の中から一つ選び，記号で答えなさい。

【選択肢】

- ア その地域で生産された生産物をその地域で消費する地産地消によって，消費者の食の安全・安心のニーズに応えるだけでなく，生産物を輸送する際のエネルギーの削減など，環境への負荷を軽減させることができる。
- イ 規格外品や消費期限が近い食品などを企業や個人が寄贈し，必要とする個人や団体へ無償提供することによって，食品ロスを減らそうとするフードバンクと呼ばれる活動が見られる。
- ウ 世界経済や流通システムの歪みによって，生産物に対する正当な報酬が得られない人々や地域をサポートするために，その生産物を先進国が輸入する際の関税を軽減または免除するフェアトレードという貿易が取り組まれている。
- エ 農産物の量に，生産地から食卓までの距離を掛けて算出されるフードマイレージという値によって，輸送が環境に与える負荷を数値化し，大量かつ長距離の食料輸入を見直そうという取り組みが見られる。